

# 平成30年度 学校自己評価システムシート ( 県立浦和西高等学校 )

目指す学校像	自主自立の精神を生かして、国際社会に貢献できる人材を育成し、地域に信頼される進学校
--------	---

重点目標	1 確かで高度な学力を確立し、第一志望を実現する質の高い授業の実践 2 地域に信頼され貢献できる生徒の育成 (信頼される人間力の育成) 3 たくましく健やかな心身の育成
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	11名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )			実 施 日 平 成 3 1 年 2 月 1 6 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	国公立大学への合格者は昨年度上昇したが、難関私立大学等への現役合格者は、平成27年度をピークに減少傾向である。 より高いレベルで生徒の第一志望を実現するためには、質の高い授業の実践が必要である。	高い志をもって目標を設定し、最後まで諦めることなく第一志望実現に挑む生徒を育成する。	1 高い志と学力の育成・第一志望の実現 ①組織的な進路指導体制の構築と最新情報の積極的な提供、進路相談や個別面談等によるきめ細かな進路の実践 ②県指定事業「骨太のリーダーを育成する高校生のための埼玉版「リアルワーク」事業」への積極的な参加 ③校長による全学年生徒面接	1 高い志と学力の育成・第一志望実現の状況 ①国公立・難関私立大学進学率35%以上(昨年度33%) ②事業参加生徒による報告会等による本校の活性化状況 ③全校生徒面接状況	1 国公立大・難関私立大学への意識が高まっている。 ①国公立大現役合格者数は15名→昨年度12名(2/1現在)。センター試験は99%(前年同率)が受験。5(6)教科7(8)科目受験者は43%(前年38%)、平均点は前年比文系-9.7・理系-5.2であった。 ②骨太事業のべ6名参加。 ③校長による全生徒との面接実施。	B	・「新生西高!更なる躍進」の実現に向け、現状に満足することなく、より一層組織的な進路指導体制の構築と、質の高い授業に取り組む。 ・本校の「目指す学校像」の実現に向け、新学習指導要領の施行に向けた新たな教育課程を編成する。 ・ICT環境の整備によるタブレット教材導入、全HRプロジェクト-設置、Classiによる授業改善。	・ここ数年の進路実績を考えると、達成度に関しては、もう少し高い評価でもよいと思う。 ・生徒の進路実現に向けては、まず質の高い授業の実践が必要ではないか。 ・校長による個人面談は非常に良い。引き続き生徒たちの「個性」を伸ばす指導を行ってほしい。
		生徒一人ひとりの進路希望を実現する質の高い授業を実践する。	2 質の高い授業の実践 ①生徒による授業評価アンケート・シラス・西高CAN-DOリストを活用したPDCAサイクルに基づく授業改善 ②授業見学・県外視察・研究授業・学校間交流・研修会等による授業改善の取組の推進 ③学校間ネットワークによる他校との情報共有	2 授業改善の状況 ①授業満足度率・西高CAN-DOリスト達成率:85%以上 ②参加教員数:10%増加 ③学校間レビューの実施	2 各研修会等参加し、授業改善に向けての意識は向上している。 ①授業満足度83.7(前年比+1.1)・西高CAN-DOリスト達成率76.8(前年比+3.5)と昨年度よりそれぞれ増加したが目標値を下まわった。 ②授業相互見学245回(前年比-39回)。「未来を拓く『学び』プロジェクト事業」研究開発員3名による「知識構成型ジグソー法」を活用した研究公開授業及び研究協議会を実施。 ③学校間レビューを実施。平成31年度学校自己評価及び人事評価に係る実施計画を作成。	B		
2	本校に対する地域からの信頼は高まっている。 これまで以上に信頼を高めるためには、生徒・保護者・学校が一体となって、地域や社会に貢献するとともに、学校情報を積極的に発信していく必要がある。	情報の発信方法や質の高い情報を発信し、より地域に信頼される開かれた学校づくりを推進する。	1 本校の魅力・取組・生徒の活動の発信 ①学校通信の毎月発行・ホームページの随時更新 ②学校説明会校外開催の効果的な実施(8月)と部活動見学会の開催 ③土曜公開授業・校内学校説明会でのアンケート実施による運営改善	1 情報発信の状況 ①ホームページ ・更新:月間20回以上 ・アクセス数:年間40万回以上 ②参加者:10%増加 ③入試倍率:1.50倍以上	1 様々な情報発信の結果、多くの来校者を迎え、信頼を得ることができた。 ①更新回数299回:月平均25回。アクセス数34万件超。 ②学校説明会全7回実施。参加者は4190名(昨年4332名)。土曜公開授業は全15回実施。 ③12月現在の進路希望状況調査で2.11倍(過去11年間で最高)を達成。	A	・地域に信頼される西高を目指し、HPとともにスマート連絡帳により、学校情報を積極的に発信することによってPTA・後援会・地域の方々に対し開かれた学校づくりに努める。 ・登下校のマナー指導の徹底を図る。 ・県教育環境整備基金を活用し、更なる環境整備の計画を推進する。	・小学校訪問でも西高の生徒の活発化、積極性、物事にまっすぐ向き合う姿勢を含めた「人間力」を感じられた。このまま伸ばして行ってほしい。 ・登下校時のマナー指導を、継続的に実施する必要がある。
		自ら率先して地域との交流や社会貢献活動に取り組むことができる生徒を育成する。	2 地域との交流活動・社会貢献活動の拡充 ①小学校・中学校・高校・特別支援学校等との連携した交流活動の実施 ②地域との交流活動(斜面林友の会・地元自治会等)や社会貢献活動(ボランティア・被災地支援等)への参加促進 ③PTA・後援会行事の情報発信	2 社会貢献活動等の状況 ①小学校交流等の参加者数の増加 ②交流活動等への参加者増加 ③PTA・後援会・地域住民参加者数の増加	2 地域社会への貢献について、生徒の意識は高まっている。 ①小学校交流は、39名の生徒が参加。中学校出張授業には、教員10名参加。 ②ボランティア・市民活動・交流活動に約1320名参加。 ③PTA・後援会行事を西高HPで案内。	A		
3	「自主自立」の精神の下、節度ある学校生活を送る生徒が増加してきている。 今後より一層、リーダーとしての資質を向上させるためには、自らチャレンジしようとする生徒を育成する必要がある。	部活動や生徒会活動に積極的に参加し、学習面・生活面で自己管理する能力を持ち、自ら考え行動できる生徒を育成する。	1 自己管理能力の育成 ①朝学習・家庭学習の奨励・支援 ②部活動・生徒会活動・学校行事の充実 ③自己管理能力(目標・時間・生活)の育成	1 自己管理能力の状況 ①授業以外の自主的学習時間の増加 ②部活動加入率:95%以上 生徒会活動・学校行事:執行部参加生徒数の増加 ③遅刻者数年間10%減	1 自己管理できる生徒が確実に増加。 ①朝学習は全生徒に定着している。家庭学習については、ほぼ例年並み。 ②部活動加入率は、99.6%(兼部含)。関東大会に女子サッカー一部が出場。生徒会を中心に、充実した学校行事が運営されている。 ③1月末までの遅刻数は、1167回と昨年度より増加傾向。(昨年917回)	B	・『自主自立』の精神の下、自学自習の確立・文武両道の推進とともに、生徒会への積極的な参加を促す。 ・遅刻者数の増加傾向に伴い指導の徹底を図る。 ・現状の国際理解教育とともに、「オリ・パラ教育実施校」としての様々な取組を活用し、より一層グローバル教育の推進に努める。	・生徒会活動に関しては、一層充実させ、生徒それぞれの高校生活をより実りのあるものにしてほしい。 ・遅刻数の増加傾向は残念である。生徒会からも働きかけることが必要ではないか。 ・オーストラリア研修や留学生との交流を通し、積極的な異文化理解を深めるような活動を充実させてほしい。
		国際社会で貢献・活躍できるリーダーを育成する。	2 グローバル(異文化理解)教育の推進 ①オーストラリア研修及び受入による交流 ②留学生の受入、海外派遣事業への参加	2 推進の状況 ①応募数及び交流会等の参加者数の増加 ②海外派遣・異文化交流への応募・参加生徒数の増加	2 海外での文化交流を希望する生徒が増加傾向である。 ①オーストラリア研修に応募者数31名、22名派遣。 ②現在、アメリカに1名留学中。また、チェコ、カナダ、アメリカからそれぞれ1名本校に留学中。民間団体海外交流プログラムに1名参加。2月に北京大学附属中学交流事業を実施。3月に埼玉国際サッカーフェスティバル国際交流事業として、本校に海外招待チームが来校する予定。	A		

